

へんせん 小田原の漁業と漁港整備の変遷

- 室町時代** 小田原の漁業は、現在の本町、浜町に「船方村」と呼ばれる漁村が起こったことがその発祥とされています。
- 戦国時代** 船方村に「魚座＝中世、魚商人が結成した同業組合（広辞苑）」が生まれ、漁業と魚商が活発になります。
- 江戸時代** 現在の本町に魚市を開く「市場横丁」が形成されました。
- 明治末期** 明治40年3月、千度小路（現在の本町）に「株式会社小田原魚市場」が創業しました。
- 昭和初期** この当時、漁獲物は「御幸（みゆき）の浜」（小田原市本町）などの海岸に陸揚げされていました。小田原は、近くに好漁場を持ち、京浜地方の大消費地に近く、交通の便も良いという条件を備えていましたが、この生産と消費を結び漁港がありませんでした。昭和6年、当時の小田原町は漁港建設を農商務省（現在の農林水産省）に調査依頼し、小田原漁港の修築計画を作成しました。
- 昭和20年代** 昭和21年、「港築運動」活動など地元の漁港建設への要望が高まる中、昭和22年に水産庁の認証を得ました。昭和24年度に測量調査、翌25年度から「小田原漁港」の防波堤工事に着手しました。昭和25年12月、「第二種漁港」に指定され、昭和31年10月、漁港管理者に小田原市が指定されました。小田原漁港建設予定地の早川地区の海岸線は入り江を形成してなく、海底も急峻なことから、全国的にも珍しい「掘り込み式」の漁港として計画されました。
- 昭和30年代** 昭和32年度に南防波堤（現在の2号防波堤の一部）や東防波堤（現在の1号防波堤）などの外郭工事が完了し、翌33年度から内港（現在の本港）工事（掘削、浚渫作業）に着手しました。当時、小田原のブリ定置網漁は全国的に有名で、米神（こめかみ）漁場は日本一と称され、昭和20年代から30年代にかけて、ブリの漁獲は最盛を誇りました。昭和35年3月、南防波堤の先端部（現在の2号防波堤の中間部）に設置された灯台に灯がともされました。（この灯台は、その後南防波堤が延伸され、平成5年に完成した2号防波堤の先端に平成11年に移設されました。）本港西側岸壁（現在の2号陸揚岸壁と2号準備岸壁）と北側岸壁（現在の2号休けい岸壁と3号休けい岸壁の一部）が完成したことから、昭和37年には「入船式」が行われました。
- 昭和40年代** 18年の歳月と工事費約11億円をもって、昭和43年1月に「本港」が完成しました。昭和43年3月、小田原漁港内に「小田原市公設水産地方卸売市場」が開設し、相模湾や伊豆近海をはじめとする全国各地からの陸揚げ拠点となりました。昭和44年2月、「第三種漁港」に変更指定され、同年11月に漁港の管理が小田原市から神奈川県に移管されました。沿岸漁業の陸揚げ拠点としての発展と、漁船の大型化により、本港西側に「新港」の整備に着手しました。
- 昭和50年代～60年代** 12年の歳月と工事費約18億円をもって、昭和56年4月に「新港」が開港しました。昭和56年度から新港の越波（えっぱ＝波が防波堤などを越えること）対策に着手し、昭和62年度に完成しました。昭和63年度から港内静穏度向上対策に着手し、平成6年度に完成しました。
- 平成の時代へ** 平成3年7月から小田原漁港で「港の朝市」がスタート。市外からも多くの方が来訪し、好評を得ています。平成3年8月から「小田原みなとまつり」が開催され、真夏の賑わいのひとつになりました。小田原漁港を根拠地とする市内10漁協が合併し、平成5年3月に「小田原市漁業協同組合」が誕生しました。平成6年度から第9次漁港整備長期計画により、新港の西側に「蓄養（ちくよう＝漁獲した魚介類を出荷前に生簀（いけす）などで短時日飼育すること。）水面」を整備する事業に着手しました。
- 平成10年代～** 平成10年3月、米神（こめかみ）漁場にハイテクを駆使した「モデル定置網」が完成しました。平成14年度に特定漁港漁場整備事業がスタートしました。平成15年度に緊急輸送物資受入れ施設として「耐震強化岸壁」「耐震強化岸壁荷さばき所用地」が完成しました。平成15年度からは本港の耐震補強工事に着手し、平成15年度に「2号準備岸壁L＝40m」、平成18年度に「1号防波突堤L＝33m」「階段護岸L＝69m」、平成19年度に「3号護岸L＝65m」が完成しました。また、西側エリアでは、平成15年度に海水交換機能を備えた「防波堤(1)L＝85m」、平成17年度は、「防波堤(2)（混成堤部）L＝90m」が完成しました。
- 平成20年代～** 引続き本港の耐震補強工事をを行い、平成21年度に「1号陸揚岸壁（南側）L＝110m」、平成26年度に「2号休けい岸壁L＝116m」、平成30年度に「1号準備岸壁L＝45m」の耐震補強工事が完成しました。平成22年度には、西側エリア蓄養水面の「防波堤(3)L＝40m」、平成24年度に「防波堤(2)ハイブリッドケーソンL＝150m」、平成26年度に「3号準備岸壁L＝105m」及び「西側エリア埋立工事」が完成しました。平成28年度「荒久海岸人工リーフ工事」を開始し、平成29年度に西側エリアの「蓄養駐車場」が完成しました。
- 令和の時代へ** 令和元年度に西側エリアの1号・2号臨港道路、1号多目的広場が完成し、「漁港の駅TOTO小田原」が開業しました。令和2年度には、「防波堤(2)延伸工事」に着手しました。

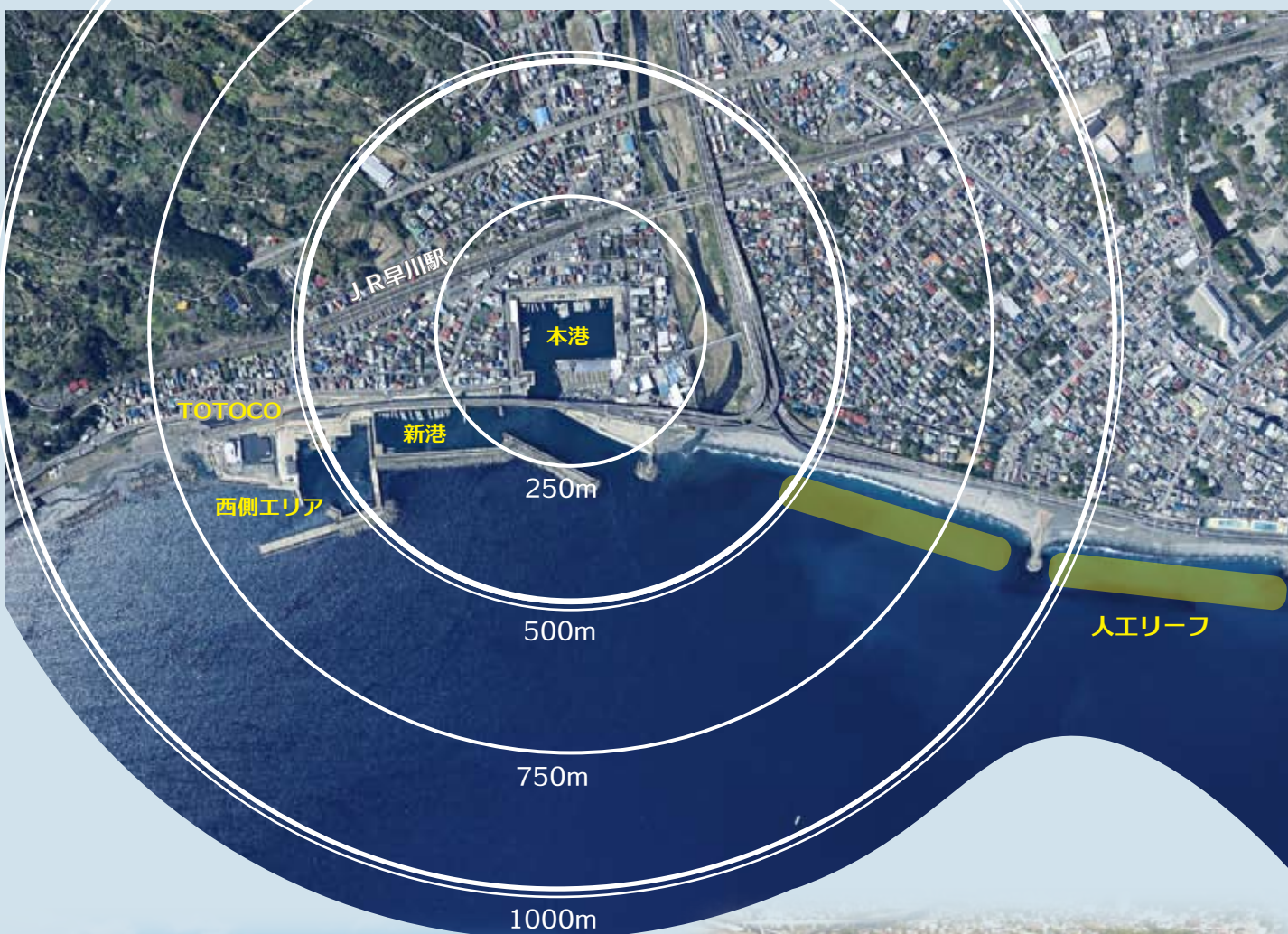
神奈川県西部漁港事務所

所在地 小田原市早川一丁目2番1号
電話 0465-23-8521
FAX 0465-23-8524

令和2年11月改訂版

神奈川県

第三種 小田原漁港



漁港の駅TOTO小田原(小田原市)



荒久海岸人工リーフ

神奈川県西部漁港事務所

小田原漁港の特徴

小田原漁港は、神奈川県の南西部に位置し、相模湾を望み、背後に箱根、西に湯河原、熱海があり、県西地域における産業・文化の中心、交通の要衝として知られる小田原市に位置しています。

小田原漁港は二級河川早川河口右岸に発達し、南西の海岸は岩礁で、東の海岸は弧状をなした砂浜となっており、相模湾や伊豆近海的好漁場を持ち、交通の便と相まって漁業発展の好条件に恵まれており、県西地域水産物の流通拠点となっています。

市場には年間約1万2千トンの水産物が、地元及び県外船の水揚げと全国各地からの陸送により集荷され、県西地域3市9町を圏域とし、その供給人口約53万人に出荷消費されています。

漁港周辺には、小田原蒲鉾や塩干物といった水産加工業が集中しており、小田原蒲鉾の名称で、県外にも広く知られています。

小田原漁港整備事業計画

神奈川県では、平成14年度に漁港漁場整備法に基づき、「小田原地区特定漁港漁場整備事業計画」を策定し、その他の事業計画とも連携して、小田原漁港の整備を行っています。

主な事業計画 小田原地区特定漁港漁場整備事業計画 平成14年度～令和4年度(最終変更 平成31年3月15日)

小田原漁港は、3つの施策を掲げ、5つの各拠点のゾーン整備を推進します。

①水産資源の持続的利用と良質な水産物を安全で効率的に供給する体制の整備

水産物流通の効率化と一貫した品質管理

- 蓄養水面の整備による活魚、高鮮度水産物の安定供給体制の確保
- 定置網漁獲物の蓄養による消費者ニーズへの対応
- 流通加工施設整備による漁獲物の高付加価値化
- 新たな流通ルートの確立による県西地域の水産物生産・流通拠点へ…

生産流通加工拠点

②水産資源の生息環境となる漁場等の積極的な保全・創造

自然環境の保全と創造

- 藻場や水質等の自然環境への影響低減に配慮した施設整備の推進
- 新たに整備する防波堤や潜堤には藻場形成機能を付加
- 防波堤(2)延伸事業L＝30mによる蓄養水面の静穏度向上
- 人と自然が共生できる豊かな沿岸域環境の創造を…

環境創造型事業

③水産業の振興を核とした良好な生活環境の形成を目指した漁村の総合的な振興

安全で快適な漁業地域の形成

- 本港岸壁の耐震強化により、災害時の海上輸送拠点港として機能確保

都市との交流促進

- 「漁港の駅TOTO小田原」を核とする都市住民との交流促進

生産労働の効率化を図り、担い手支援

- 漁具干場の整備により、網干し等の作業効率向上と住宅地への悪臭防止

防災拠点

漁船避難拠点

都市との交流拠点